

Rock The Life! ezorock vol.22

2015.3

コアスタッフとの座談会



学生生活を卒業するコアスタッフや、社会人コアスタッフに、いままでとこれからの話を聞きました。

●まずみなさんの参加のきっかけを教えてください。

ちった 1年生の夏に友達からポロクルのバイトに誘われて、その面接のときにスタッフにRISING SUN ROCK FESTIVALでの環境対策活動(以下RSR)を紹介されて、そこからEarthCareをはじめました。音楽が好きだし楽しそうだったので。コアスタッフは2年生の時から。

わっきー 2年生の夏に友達にふくしまキッズに誘われて。最初はコアスタッフには全然興味がなくてずっと当日ボランティアだったけど、3年生の冬に誘われて、そこからのめり込んでいった感じ。

りの 高校卒業したあと今のお店でアルバイトを始めたんだけど、フリーターだったから暇で暇で。それで、何かやることを探していたらRSRにRADWIMPSが来るって知って、ボランティアで行く方法はないか調べたらezorockに行き着いた。

じょー 大学2年の時にまずふくしまキッズ北海道の活動に参加して、その時にななこ(ボランティアコーディネーター)に「旭岳での活動にこない？」って誘われて始めた。大学で自然についての勉強をしていたことや、自分の興味関心と活動が合致した。



●学生時代の一部を活動に費やしてみても、今なにを感じますか？

わっきー 大学だけではできない繋がりができたことは大きかった。自分は保健体育の教師になりたいと思っていたけど、学校教育だけが教育じゃない、生きる力が身につくのは自然体験活動じゃないかっていうことに気付かされた。活動の中でいろんな人と出会って、それを仕事に繋げることができた。

ちった 高校生の時は、自分は何でもできるんじゃないかって思っていたけど、大学に入ってなにもできない自分に落ち込んでいた。でもここで自分にできること、できないことがみえた。たとえば初めてボランティアコーディネーターになった年はボランティアとのコミュニケーションが全然だめで空回りしていた。自分は人見知りだっという意識が強くて、もっとみんなと喋らなきゃと焦っていた。でもRSR中に本部スタッフに「気になる班があるから、ちったから声かけてやってくれないか」と頼られた時があって、自分ができないと思っていたところを、まわりはちゃんと評価してくれて、すごい嬉しかった。



じょー 学校では机で自然の勉強をして、ボランティアではその現場を目の前にして活動できた。そこに関わるスタッフの方、地元の方と仲良くなれたのも楽しかった。チームがないところから始まったから、チームづくりも学べた。学校で大学祭の実行委員をしていて、そこにそのノウハウを活かしたり、逆に実行委員で学んだことをチームに還元できたりできたと思う。

●社会人1年目から活動をはじめたのになって、社会人として関わる魅力ってなにかある？

りの 仕事では店長代理という立場で、自分より年上の人にも指示しないといけないことがあるから常に気を張っているんだよね。自分の年齢を意識しないようにしていないといけない。だけど、ここではハタチの自分でいられる。社会人とか学生とかそういう関係なく皆平等に意見を出し合ったりできる、背伸びしなくていい場所。

●活動を経てなにか自分に変化はあった？

わっきー 基本的に自分からなにかやろうとしない、自分で責任を持つことから逃げるタイプだったけど、ふくしまキッズに関わって本当に変わったと思う。自分以外にも、こういう活動を必要としている人はいると思う。



ちった 3年生までは興味があるからやっているという訳じゃなくて、誘われたからやっていた、動機があいまいだった。でも4年目のRSRで運営(チームの中心となる役割)という立場になってからは、自分がやりたいと思っているという実感があって、チームのことを考え始めた。役割をもらったっていうのが大きかったと思う。

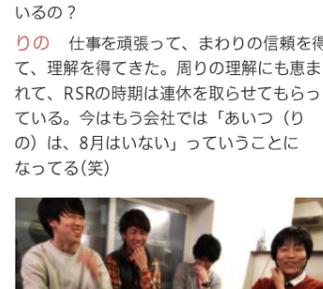
●学生のみんなは、社会人になったら活動に関わろうと思ってる？

じょー 僕はボランティアとして今後も関わるつもりです。札幌から車で一時間半なので、ミーティングはスカイプで参加したり、余裕があれば来ようと思っている。土日は戻ってきて活動に参加できるから、関わり方は今までとあんまり変わらないかも。

ちった RSRの現場にはできればいきたいけど...どれだけの時間があるかわからない。行けなくても、たとえば一緒に活動してきたメンバーが困った時とか悩んでいる時に、相談役になれたらうれしい。

わっきー 自分は同じ畑(業界)にいます。おもっているのは、ezorockとは仕事で関わっていききたい。ミーティングにも出て、随時、お互いのプロジェクトの情報交換をやれたら面白いと思っています。

タケシ(代表) 活動への社会人の関わり方って色々あるよね。本業で得たスキルを生かすタイプや、アフター5のひとつとして参加するタイプなど。関わり方はどちらでも、どんな形でもいいと思うんだけど、どうやって社会人でボランティアに関わる人を世の中に増やせるのか?というのは、課題。りのはどうやって仕事と活動をしているの?



●最後に、一言おねがいします。

ちった 大学生生活4年間でezorockの活動が、一番自分を成長させてくれた。だから今いるメンバーとかこれから入ってくるメンバーにも成長を感じてほしい。相談に乗ったりとか、そういうお手伝いができたらと思っています。

じょー どんな形になるかはまだわからないけど、古平町と都市部の若者を繋げていきたい。

わっきー 栗山だけではなく札幌の若者とも連携した活動を展開できる協力隊になりたい。

りの 仕事での目標ははっきり見えていて、それに向かって頑張ってる。ezorockではどちらかという受け身だったから、これからは目標を持って、やりたいことを探していきたい。

(聞き手:高橋(苗)、編集:上田)

代表の小言

社会人がボランティアに参加するハードルとは？

最近、社会人で活動に参加する方が着実に多くなってきています。ただ、いろいろお話を聞いていると活動に参加するハードルは簡単ではないようです。

その中でも、少し印象的だったのは「職場の理解が得られないので、活動に参加していることを話したら、活動に賛同していることを話して、活動に賛同していることを話して、活動に賛同していることを話して...」という意見。詳しく聞いていくと、アフターファイブや、休日に限定して活動に参加していても、上司や先輩に、「そんなことしていい余裕あるんだ...」という風に見られてしまうため、なかなか言えないとのこと。ですが、旅行や飲み会の話は普通に話されているそうです。中には、体調を少し崩すと、「ボランティアしているからじゃないか」と言われてしまったというケースもありました。

そういうメンバーには、掲載された新聞の記事を渡したり、行政との協働事業の情報を伝え、「信頼できる団体だ!」と理解してもらえらるよう努めています。もう少し時間がかりそうなんです。

やはり、NPO自体がもっと日常の中に溶け込み、活動している姿をさまざまな手法を使って見せていくことが、信頼を獲得するもっとも最短ルートかもしれません。「今日の仕事、終わったのでちょっと行ってきます」と、気軽に言える日常にしたいものです。

草野 竹史

NPO法人 ezorock 会員向け情報誌 vol.22 2015.3

Rock The Life! ezorock

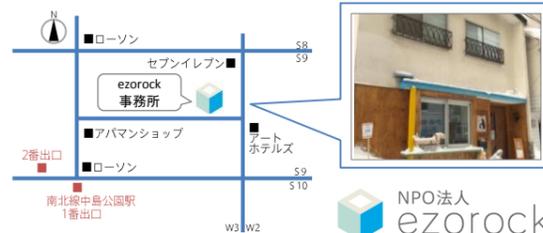
〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1-7

TEL/FAX : 011-562-0081

E-mail : info@ezorock.org

WEB http://www.ezorock.org/

f http://www.facebook.com/ezorock/ t http://twitter.com/ezorock/



今月の写真 2014年度1年間で撮影した写真は1万枚以上。その中から各プロジェクトのベストショットを集めました。

